

岡崎朋也（おかざき・ともや）



本編の主人公。絵に描いたような不良ではないが進学校のため、不良と呼ばれている。元はバスケの推薦で来たのだが、父親と揉めて右肩を壊してしまって退部。やることもなく自堕落な生活を送っていた。自分と似たような境遇にいる陽平といつもつるんでいる。本人曰く面倒見はいいらしい。恋愛には疎い方なのか自分に自信がないのか、寄せられている好意にはほとんど気付いていない。渚と関わって以来学校が嫌いじゃなくなった。

古河渚（ふるかわ・なぎさ）



本編のメインヒロイン。頭に生えたアホ毛は親からの遺伝と思われる。大抵の人間に敬語を使う。頑張るときはおまじないとして自分の好きなものを言う。だんご大家族という昔流行ったキャラクターが大好きで、見つけてはグッズを買っている。目標は演劇部を作ることによってそれを叶えてから初めての舞台の前に両親の秘密を知ってしまい、大きなショックを受けた。その時は父親や朋也の言葉によって復活した。

藤林杏（ふじばやし・きょう）



朋也たちの同級生。椋の双子の姉で、いわゆるツンデレ。クラス委員長もしているが人に辞書を投げたり、飛び蹴りしたり、禁止されているバイク通学をしたり、あまり強い自覚はないらしい。料理は結構出来る方。ポタンという猪の子供も飼っている。将来の夢は保護さんで、アフター編ではその夢を叶えている（そのときもポタンを飼っており、ポタンは園児たちの遊び相手になっていた。もちろん成長している）。

藤林椋（ふじばやし・りょう）



朋也たちのクラスメート。杏の双子の妹だが、性格は正反対で大人しいタイプ。ほぼ無理やりクラス委員長になった。2年の時に杏の話聞いて3年で同じクラスになった時に朋也を好きになったが、その想いはなかなか伝えられなかった。友達思いで恋敵にも優しく接し、何かあれば力になりたいとも思っているほど。杏が朋也のことを好きなのは知っていてそれで自分の想いを言ってしまったことを後悔している。姉と違って料理はダメダメ。

一ノ瀬ことみ（いちのせ・こ）



天才児。授業免除でいつも図書室にいる。両親の事故の事がトラウマで、両親の名前の載っている記事や本を切り取っている。ぼけーとした天然系で、お嬢様っぽいイメージとは対照的にバイオリンは空間が歪んでしまうほど下手。ただし料理は上手い。小さい頃に朋也と会っていて（それから色々あって朋也はことみのことを忘れていた）仲は良かったが、恋愛感情まではいっていないようだった。完全なボケキャラだが、ツッコミを練習している。

坂上智代（さかがみ・ともよ）



二年生。生徒会長を夢見て、それを実現させた。ちなみに生徒会長になったのは思い出のある桜の木が切られないように活動するため。（そのために近くの学校に引っ越してきた）渚の頭を撫でたり、大人びた口調をしていたりと年下とは思えないような場面が多い。スポーツもできるので、そこら辺の部活動からのしつこい勧誘を受けているが、生徒会に入るためにすべて必死に断っている。

伊吹風子（いぶき・ふうこ）



ヒトデ大好き少女。幼い外見だが、一応朋也たちと同じ学年。入学式の日交通事故にあい、生き霊として学校へ来ている。姉の結婚を大勢の人に祝ってもらうためにヒトデの彫刻を作り、みんなにプレゼントしている（ほとんどが星などだと思っている）大好きな人やヒトデに触ると（人の場合は抱かれたりすると）妄想ワールドへと旅立ってしまう。よくその最中に朋也から悪戯を受けて

いる。最後には意識を取り戻すが眠っていたため外見にあまり変化はなく、とても大人には見えない。

春原陽平 (すのはら・ようへい)



朋也たちのクラスメート。朋也と同じくスポーツ推薦（サッカー）だったのだが、他校の生徒と喧嘩して退部。ちなみにそのとき生徒指導室で叱られた後に朋也と出会った。金髪は染めたものらしく、社会人になったときは黒に戻していた。渚に好意を寄せていたが、本気なものなのかは不明。運動神経は抜群で、どんなスポーツでも器用にこなす。普段はだらしない性格だが、朋也やヒロインたちが迷ったときには厳しいながらも優しい言葉を送っている。朋也のことは本当に親友だと思っている。

春原芽衣 (すのはら・めい)



陽平の妹。陽平のことを心配してちょくちょく遊びに来る。サッカーを辞めて兄は落ち込んでいると思っているようだったが、朋也たちといるときの姿を見て安心する。兄とは対照的にしっかり者で、部屋の掃除などが得意。陽平のことはお兄ちゃんと呼んでおり、頼りにしている。

宮沢有紀寧



ポタン



杏が飼っているウリボウ。棕を怖がっていて、朋也に懐いている。

やきだんご



あんだんご



赤ちゃんだんご



としよりだんご

